

論壇

国際金融市場揺さぶる

先週、イタリアやスペインの政治情勢が国際金融市場を揺さぶった。EUへの懐疑派の影響力が強まるイタリア議会では、組閣を巡って合意が進まず、イタリア国債の金利が急騰する事態を招いた。スペインでも首相の不信任案が成立し、その影響が懸念された。こうした政治の動きを受け、金融市場は一時的にリスクオフの状態になった。つまり、市場の資金がリスクを避けるような方向に動いたのだ。イタリアやスペインはもとより、リスクの比較的大

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

きな途上国などの金利が上昇すると同時に、米国や日本の国債など比較的风险の少ないと見られる資産に資金がシフトした。その結果、円も一時的に円高の方に動いた。これによって株価が下がった。

今週に入って、こうした動きは沈静化したようだ。今後の動きは

欧州政治リスク

分らないが、とりあえずはたいしたことはないかと期待している。ただ、イタリアやスペインのような欧州の少数の国の政治リスクでも、これだけ世界の市場が反応する。グローバル化する経済では、世界の隅々で起きていることから目が離せない。

2012年の年初にピークに達

したギリシャ危機は、危機度がさらに大きなものであった。ギリシャの財政破綻の可能性がまことしやかに囁かれた。ギリシャがユーロから離脱するようなことになれば、他の国にもそのショックが波及し、ユーロの通貨システムそのものが崩壊するのではないかと

そうした危機感を煽る専門家も少なくなかった。

幸いなことに、あの時にはドイツなどが中心となつて、なんとか事態を收拾することができた。国内的にも政治的に安定していたメルケル政権が果たした役割は大きかった。

それから6年経った今、欧州では

どのような変化が起きているのだろうか。もっとも大きな懸念は、欧州の政治が流動化していることだ。今回のイタリアの騒動でも、EUへの統合に疑問を持ついわゆるポピュリスト政党や極右政党が議会での影響力を拡大させていることがその背景にある。

メルケル氏影響力低下

EUが統合を維持するために、加盟各国が健全な財政運営を継続しなくてはならない。かつてのギリシャのように財政危機が表面化するようだと、ユーロのシステムを維持することが難しくなるからだ。ところがポピュリストの人たちは、EUの下で自国の財政運営が制約されることを嫌って

る。しかし、彼らの主張のような

財政運営が行われれば、イタリアの財政危機の懸念が高まるのだ。この6年の政治情勢のもう一つの大きな変化は、ドイツでのメルケル首相の影響力の低下だ。絶対的な政治的安定によって欧州の危機回避の政治力を発揮するといふ、かつてのドイツの役割に陰りが出ている。

経済が不安定化する時には、政治が安定していることが必要だ。欧州の安定は、ドイツの政治的な安定が支えてきた。ただ、政治の方も不安定化してくると、もしギリシャ危機のような大きな経済リスクが表面化すれば、それを政治が防ぐことも難しくなる。欧州の政治と経済の動きには、今後しばしば目が離せない状況だ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。